

2016年初の乱高下は

こう読み解く

年表とグラフでみる 昨年末から今年2月までのマーケット

年

初早々の株式、為替、金利マーケットは乱調を極めた(図表1参照)。

2月末に至るまでに以下のよう
に短期間で極めてボラティリティ
(変動率)が高い展開が続いた
(いずれも終値基準)。

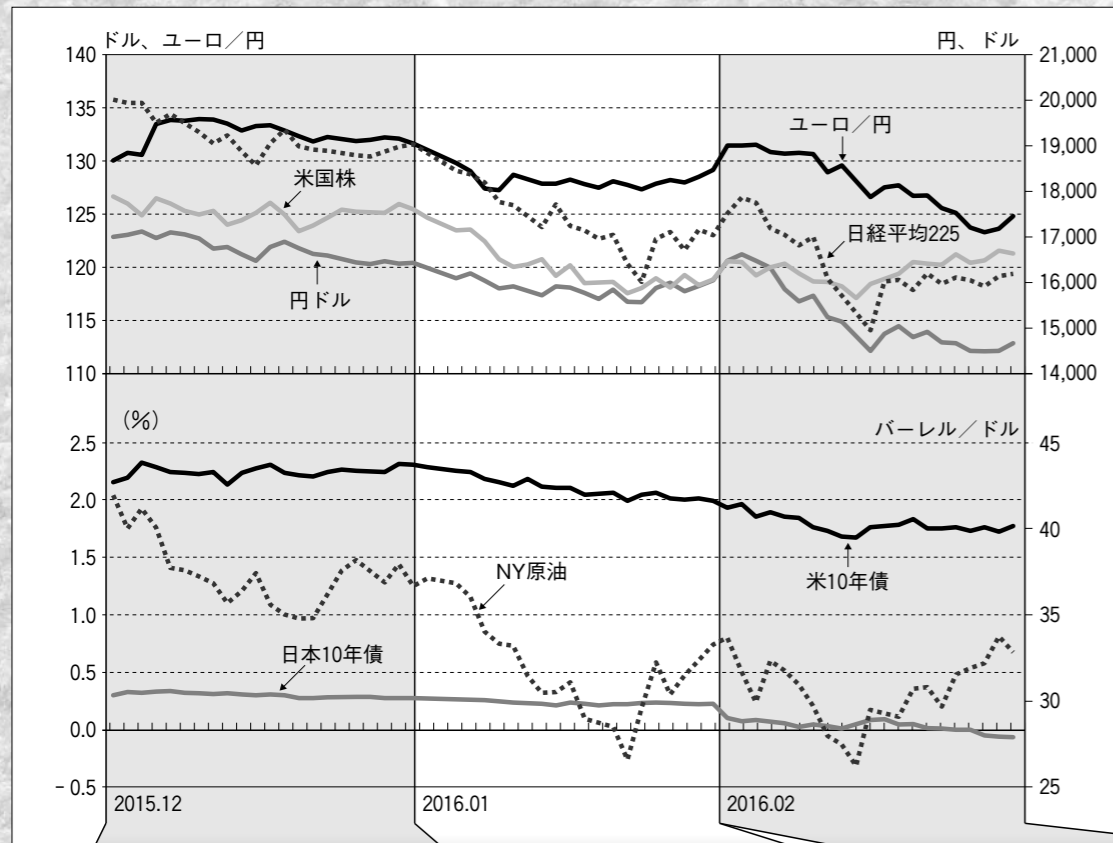
- ・ドル円相場
121円21銭(2月1日) ↓
112円11銭(2月24日)
- ・日経平均株価
1万8450円(1月4日) ↓
1万4952円(2月12日)
- ・10年国債利回り
0.26%(1月4日) ↓

- ▲0.07%(2月26日)
- ・WTI原油価格
36.76ドル(1月4日) ↓
26.21ドル(2月11日)

世界経済全体に対する新たな不安要因が相次いだことが主因だ。一体何が起きているのか。このマーケットの乱調ぶりは何を意味しているのか。さらには、この中で資産管理、運用部門において、最低何を踏まえておくべきなのか。

次のページからは、昨年12月から今年2月末までの動きを時系列で追ってみる。

図表1 年末～年初の株、為替、金利マーケットは大波乱



2015年12月					2016年1月					2016年2月																				
1	3	9	11	16	17	18	22	25	3	4	12	15	20	21	27	29	9	10	11	12	16	19	23	26						
日経平均株価が終値で2万円台回復	ECBは中銀預金金利を引き下げ、量的緩和の6ヵ月延長を決定	中国人民銀行は人民元の対ドルレートを元安水準に設定	IEAは原油余剰が2016年も続くとのレポート	米FRBが利上げを決定。9年半ぶり。ゼロ金利を脱却	米7~9月期GDP確定値が2%増	日銀が量的・質的金融緩和(補完措置)導入を決定	米フィラデルフィア連銀製造業景気指数は▲5.9と急落	10月の日本の実質消費支出は前年比で▲2.9%と大幅な落ち込み	サウジアラビアがイランとの国交断絶を発表	中国のPMIが予想を下回り上海株急落	日経平均株価が年初来6日連続安。戦後初。	中国人民銀行が中国本土以外の市場で人民元買い介入000ドル割れ	NYダウ年初より史上初の10営業日連続安で1万7000ドル割れ	WTI原油価格が終値で1バーレル≒30ドル割れ	WTI原油価格が一時1バーレル≒26.19ドルと12年8ヵ月ぶりの安値	WTI原油価格が一時1バーレル≒26.19ドルと12年8ヵ月ぶりの安値	日銀が初のマイナス金利導入を決定。「想定外」と受け止められる	FRBは「昨年終盤に米経済は減速した」と景気判断を下方修正	ECBドラギ総裁は次回会合3月10日に再度金融緩和に踏み切る可能性に言及	ドイツ銀行の社債利子支払懸念が表面化	日本の10年国債利回りが▲0.035%と史上初のマイナスに	ロンドン市場で円相場が一時110円台割れ。1年3ヵ月ぶり	イエレン米FRB議長は利上げペースの減速を示唆	日経平均株価が1年4ヵ月ぶりに1万5000円台割れ	日本の昨年10~12月期GDP一次速報値が▲1.4%と市場予測を下回る	日銀、マイナス金利適用スタート	無担保コール翌日物レートがゼロ%に。10年ぶり。	中国の2015年成長率が6.9%と25年ぶりに7%を下回る	黒田日銀総裁はベースマネー目標による物価効果に疑念表明	菅官房長官は来年4月予定の消費増税で「税収増えないなら引上げはない」と発言

主な出来事

金融データシステム代表
角川総一